



こんにちは  
市会議員

# 井坂博文

です

連絡先／日本共産党北地区委員会：京都市北区紫野雲林院町78／電話432-3261／F A X 441-4968

## 市会運営委員会で

### 他都市の議会運営を学ぶ



8月28日、30日、横浜市・札幌市・名古屋市へ京都市会運営委員会の他都市調査に行ってきた。

28日は横浜市議会。ここは議会事務局でなく議会局を名乗っている。議会局になつてのメリット、デメリットについて尋ねたら「名称を変えても特に変化はない。政策立案機能を高めることに力を入れている」との返事。局でも事務局でも議員と議会活動のサポートに違いはないということか。

29日は札幌市議会。札幌市議会も年4回の定例会方式。閉会中の常任委員会は理事者報告中心で議員要求による開催、一般質問だけの委員会もほとんどない、という。だから、委員会によって年間開催数・時間にアンバランスがあり、事務局の説明で「開会中の繁忙期とそうでない時があります」と苦笑いされていた。

その一方で、委員会傍聴は政令市トップクラス。すべての委員会が傍聴可能。人数制限なし、席が足らなければパイプ椅子を足し、それでも入り切らなければ廊下に椅子を並べ、スピーカーをセットするという。これこそ「開かれた市会」と言える。



翌朝、ホテルを出て千歳空港に向かう。気温は20度少し！むっっちゃ涼しい。



30日、最終日は名古屋市議会。ここは言わずと知れた河村市長と議会がガチンコ対決している議会だ。議員提案の条例が多く出されている。京都市議会でも参考にしたい。

議会運営で考えたのは常任委員会の開催状況。

横浜、札幌でもそうだが、定例会閉会中の開催が理事者報告中心で市政一般質問含めて議会側のイニシアチブが見えてこない。

それから考えると、京都市議会の集中審議期間以外の月2回の開催で、理事者報告、請願・陳情審議、一般質問をすべてやっているのは議会のチェック機能の発揮を考えると特筆すべきことだと思う。

一方で、横浜市議会は委員会傍聴原則実施として専用椅子を常設している。歴史を感じさせる本会議場は円形で「和を持って尊しとする」意味だという。また、議席番号で42番が「死に(42番)として外されているのも面白い。

## 関西広域連合議会定例会で討論に



24日、関西広域連合9月定例会が開かれた。年に一回この時期の定例会は各県持ち回りで開会しており、今年も滋賀県議会。時代を感じさせる荘厳な議場だ。

私は、従来の「決議の提案は全員協議会での全会一致による」との申し合わせでなく、理事全員の賛成(理事には共産党議員はいない)で提出・上程された「2025年国際博覧会の大阪・関西への誘致に関する」決議案について、「万博そのものには反対しないが、IRとセットにした誘致には賛成できない」と反対討論をおこなった。

正直言って、日本共産党の私と浜田府議以外の議員から「広域連合と関西の各議会が誘致決議をあげて世論を盛り上げよう」との発言や一般質問が続くなかで、反対討論に立つのは勇気がいる。「スジを通す」のも実はしんどい。

しかし、討論を終えて席に戻り、定例会が終わると、他県の他党の議員の方から「共産党が反対するのはよくわかってる。スジを通してお疲れさん」「共産党が万博そのものには反対ではないことはわかってる」「実は私もIRには反対だが、万博誘致は必要なんで決議には賛成した」と

か、夜の懇親会でも「IRには賛成だがカジノ誘致には反対だ」と声をかけられた。また広域連合議会事務局の方からは「全員協議会での全会一致の申し合わせと議員の議案提出権の矛盾についての指摘はその通り。今後、検討したい」との意見をいただいた。

## 切断・破壊されたモニュメント



23日、先日投稿した美術館モニュメント「空にかける階段」の切断現場を見てきた。無惨に切り倒され、ブルーシートに覆われて横たわると、ニユメントと基壇を見ると、もはや芸術作品とは言えない。富樫さんの無念を思うと胸が痛い。

9月5日に開かれた市会文化環境委員会「市の担当者は切断したことを最良の判断、と言うが、胸が痛まないのか、作家や市民に謝罪する気持ちはないのか」と聞いたら、担当者も局長も「悪いことをしたとは思っていないから、謝る気持ちもつもりもない」と答弁。まったく、芸術作品をどう考えているのだろうか！

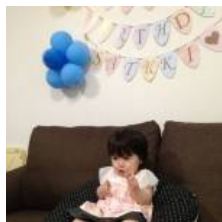
また、「市の説明と作家側の意見に食い違いが多い。議会として作家側の意見を委員会に聞いて公平に判断すべき」と参考人としての委員会への出席を求めて、検討することになった。

## 孫が1歳になりました



孫が8月15日で1歳の誕生日。そこで、20日に娘夫婦と双方の親が集まりお祝い会を開いた。

ママとパパが離乳食を使った寿司とケーキを上手につくってくれた。



お祝いの飾りの下で孫も「ハイ1歳」のポーズ。終戦記念日に産まれたこの命、絶対に戦争でなくさせてならない。